

## 25 歯科検診が不安で参加を嫌がるHさん(小学校)

Hさんは、日常生活の見通しがもちづらい特性があり、活動内容の理解や変化への対応を苦手としています。特に健康診断への参加を嫌がります。

歯科検診において、Hさんができるだけ不安にならずに受診できるようにするためには、どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎日程や時間の変更のため、活動の見通し(イメージ)がもてないため
- ◎何をするのか理解できないことから、不安が大きくなるため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 活動内容を事前に提示する (①-2-3)

○事前に活動内容を作成して、どのような活動があるか理解できるようにする。歯科検診に関する時間変更についても事前に提示して、理解できるようにする。さらに、歯科検診で使う器具を使った練習や学校医の写真を使った説明を行う。

4月15日(金)

10:30~ しかけんしん 歯科検診

① くち 口をあける

② きぐ 器具が くち 口に はい 入ります

ちい (小さい かがみ 鏡)

③ は 歯を み 見ってもらう

終わりです！



事前に検診の内容を視覚的に提示することで、見通しがもて、検診に参加できるようになりました。

## 2 我慢できない場合の待機場所を確保しておく 〈①-2-3〉

- 検診時に受診できない場合は、待機する場所（保健室等）を事前に決めておく。気分が落ち着いたら、所定の検診場所に戻ってくることなど、本人との約束事を決めておく。
- 学校医と事前に打合せをしておき、学校医にも、検診中の配慮について事前に説明、確認しておく。



我慢できない時は、保健室でクールダウンすると事前に決めておくことで、不安なくいつもと違う活動に取り組めるようになってきました。

## 3 無理に集団検診をしないという選択肢（代替活動）も用意しておく

〈①-1-2〉

- 集団検診を受診することができないことも想定し、別の検診方法等を用意しておく（いざという時には別の時間に受診する）。
- 集団検診が無理な場合は、学校医と事前に打合せをしておき、個別に受診する時間を設定する。
- 回数を重ねるごとに少しずつ集団検診に参加できる機会を増やしていく。



無理にみんなと一緒に検診をしなくてもよいという選択肢が不安の解消につながりました。



## 26 学習やグループ活動に難しさを感じるIさん (小学校)

通常の学級で過ごすIさんは、文字の読み書きや漢字を覚えることが苦手です。日常的なことでも、覚えることに関しては苦手です。友達関係は良好なので、友達とのかかわりを取り入れながら学習を進めています。Iさんが充実した学校生活を送るためには、どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎漢字などの複雑な形の認識ができないため
- ◎文字の読み書きをしたり、漢字を覚えたりすることに苦手意識をもっているため
- ◎自信をなくしてしまっているため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 学級編制に配慮する <①-1-1>

- 日頃の学級生活の様子について、担任をはじめ多くの教師が観察し、年度末の学級編制会議では、話がしやすかったり、お互いに認め合ったりしている仲の良い友達を同じ学級に入れるよう配慮する。



仲の良い友達が増え、関わりが広がるよう学級編制について話し合います。

## 2 周囲の理解を促す <②-2>

○Iさんは、いつも前向きで一生懸命に頑張る姿が見られる。本人の人柄が良いこともあり、友達から認められる存在となっている。グループ活動では、一緒に活動するメンバーや場所に配慮し、本人が取り組みやすい環境を整えている。



学級での掃除や給食の配膳などの分担は、やり方を覚えて丁寧に取り組んでいます。周囲の友達もIさんの姿を見て、一緒に取り組んでいます。

## 3 休み時間の過ごし方を工夫する <①-2-3>

○外へ出てドッジボールをして遊ぶことが多い。教師が遊びに加わることで、進んで友達がIさんにボールを回すようになったり、Iさんが楽しめるような新たなルールを決めたりして、「みんなで楽しく遊ぶ場面」が増えてつある。

運動が得意というわけではありませんが、グラウンドへ出ると友達と一緒に楽しく過ごしています。ドッジボールが大好きです。



## 4 教科学習についての合理的配慮（座席、拡大教科書の活用、友人のサポート等）を検討・提供する <①-1-1>

○座席は最前列にして教師が支援しやすい位置にする。音読では、隣の児童が読んだ後に、追いかけて読みをするようにする。視覚障害など見え方に困難がある場合には、拡大教科書を活用することで、(保護者が)漢字にルビが振りやすくなり、学習に参加する場面が増えてきている。

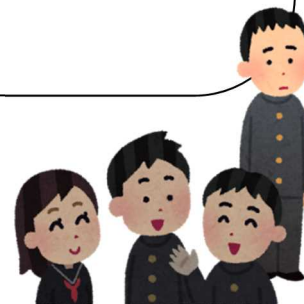
## 27 登校しぶりのJさん（中学校）

小学校の頃からとても真面目で、大人びた発言をしていたJさん。学習への意欲は高く、成績も優秀です。各教科の授業では、教師らの問いかけに対して、周りを気にせずすぐに答えてしまい、注意を受けることも多くあります。理解が早いことから、家で「授業がつまらない」と親へもらし、授業内容に物足りなさを感じています。

また、中学校へ入学してから、学校生活が大きく変わったことや、他の小学校出身の生徒と一緒にになったことで、ストレスを感じ、家で暴言を吐いたり、暴れたりするようになりました。

2年生に進級し、登校する時間が少しずつ遅くなり、毎日登校することができなくなりました。この時には、時間通りに登校できない自分が許せない事にも悩んでおり、本人は、「学校に行って勉強をしたい。高校進学もしたい。」と訴えていました。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）



- ◎環境が変化する（パターンが大きく変わる）ことへの不安のため
- ◎周囲の生徒からの理解が得られにくい
- ◎本人が学校生活の中で、十分な満足感が得られない

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 見通しがもちやすくなるような配慮をする <①-1-1>

○週の始まりに休むことが多くあった。「次の日に何があるのかわからないと不安になってしまう」というJさんから話があり、各教科の職員に翌日の予定を簡単にまとめてもらい、一日の流れが分かるように表にしてJさんへ渡すようにした。また、週末に来週1週間の簡単な予定も渡すようにした。1時間目から登校出来ることは少ないが、自分で予定を立てて、遅れてでも来られるようになった。



## 2 全職員が本人の実態を共有し、学校生活支援、学習支援にあたる <①-1-1>

○Jさんはとても真面目で、冗談が理解できずに考え込んでしまうことがあった。見通しがもてないと不安になり、気分が落ち込んでしまう。いつも全力を尽くし、気分転換を苦手としている。コミュニケーションも苦手な自己肯定感が低い状態である。そのため、学級でJさんの興味・関心の高い哲学や歴史についての話を織り交ぜたり、新聞づくりで作成したものを学級の友達の前で発表させたりしながら、自己肯定感を高めていった。

## 3 学習内容の変更・調整を行う <①-1-2>

○全職員が、Jさんの認知特性について共通理解し、プリントや問題集を使った学習を進めた。Jさんは高い学習能力をもっていることから、各教科担当が用意した難易度の高い学習に積極的に取り組むようにもなった。

## 4 専門性のある指導体制を整備する <②-1>

○中学校へ配置されているスクールカウンセラー（SC）を活用し、Jさんの心理面に関する相談や保護者との相談を受けている。中学校1年後半から家庭内の人間関係トラブルが起きていた。兄弟の間でトラブルが絶えない状態だった。母親からの相談もあり、校内委員会を行う中で、弟についてもSCのカウンセリングを行った。ここでは、兄の特性に対する理解を深めることで、トラブルも少なくなってきた。また、SCと相談・協議し、校内で共通理解した事を整理して、学年・学級で対応するようになった。

### 学校としての対応は？

- 1 校内委員会で学校支援体制の充実に向けて、役割の明確化
- 2 全職員による情報の共有化
- 3 学校全体で授業ルールを統一
- 4 地域の特別支援学校へ教育相談の要請
- 5 スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、医療機関との連携

